

線路沿いの
桜並木で
逢いましょう

Kawata Yukihiro

河田幸広

登場人物

源 希輝 摂陽大学付属高校3年。全盲。

源 愛世 摂陽大学3年。希輝の姉。

源 天優 希輝と愛世の父。主夫兼絵本作家。

源 昇妃 希輝と愛世の母。キャリアウーマン。

城崎 朝帆 摂陽大学付属高校3年。双子の姉。

城崎 夕一 摂陽大学付属高校3年。双子の弟。

四葉 樹色 摂陽大学付属高校3年。

四葉 千楽 学生食堂の調理師。

連堂 ひすい 摂陽大学付属高校1年。

その他、教師、生徒など

第1話 桜並木の出会い

場面…源家のダイニング、朝食中

朝日の差すダイニング。

座っている希輝の前に、スープを運んでくるエプロン姿の天優。
手さぐりでスプーンを探し、スープを飲む希輝。

天優 どうかな？

希輝 おいしいわ。

天優 (部屋に向けて) 愛世、ごはんどうする？

愛世 (ドア越しに) いらな〜い。

希輝 お姉ちゃん、昨日何時に帰ってきたのかしら？

天優 だいぶ遅かったみたいだね。モデルも大変だ。

希輝 大学の始業式は来週？

天優 (カレンダーを見ながら) そうみたい。

玄関のドアがノックされる。

天優 はいはい。

ドアを開ける。

朝帆 おはようございます。

天優 おはよう。朝帆ちゃん、夕一君。

夕一 おはようございます。

我が家のごとく、家上がる朝帆と夕一。

希輝 どうしたの？ こんなに朝早く。

朝帆 始業式から遅刻したくないでしょ。誰と同じクラスになるか楽しみだわ。

夕一 みんな同じクラスだといね。

希輝 うん。(食べ終わって)ごちそうさま。用意してくるから待ってて。

希輝はテーブルや椅子を触って場所を確認して、ゆっくりと自分の部屋まで歩いていく。

夕一 ゆっくりでいいよ。

希輝 うん。

朝帆 (愛世の席を見て) あれ、愛姉あいねえはいないんですか？

天優 まだ寝ているよ、昨日も仕事だったからね。

朝帆 そう。残念ね、夕一？

夕一 べ、別に。

朝帆 無理するな、無理するな。もうすぐあの部屋から愛姉が出てくるかもよ。

夕一 (顔を背け) 僕は希輝を待っているんだよ。

二階でドアが開く音がする。

朝帆 あ、愛姉。

夕一 (ドキドキしながら振り返る)

希輝 え？

朝帆 なんちゃって。

夕一 もう……、早く行こうよ。

夕一が玄関へ歩き出す。

朝帆 はいはい。……あれ、愛姉。

夕一 (振り向いて) もういいよ。

パジャマ姿の愛世が眠そうに階段を下りてくる。

愛世 ふあゝあ。あら、朝帆ちゃん、早いわね。

朝帆 始業式ですから。いやゝ、それにしてもパジャマ姿の愛姉も素敵だわ、ね、夕一？

夕一 (下を向きながら) お、おはようございます。

朝帆 ほれほれ、顔を上げないと、レアな愛姉が見られないぞ。

夕一 (愛世を見ずに) あ、あの、その、いつてきます。

愛世 ふふ、いつてらっしゃい。

夕一、ドアにぶつかりながら、外に出る。

朝帆 いやゝ、おもしろい。

希輝 ほら、私たちも行こう。(白杖を持って) それじゃあ、いつてきます。

天優 気をつけてね。

場面…通路路にある桜並木

幅が狭く、人が1人通れるほどしかない。朝帆、希輝、夕一の順番で一列になり、双子はいつでも希輝を介助できるようにしている。

朝帆（桜を見て）咲いたわね。

夕一 うん、もうちよつとで満開だ。

朝帆（希輝を振り返り、花びらを希輝の掌に乗せて）ほら、希輝。

希輝（触りながら）ああ、1年ぶりね。

夕一 春だねえ。

3人はしばらく立ち止まって春を感じている。

青春真っ盛りの、希望に満ちた3人の表情。

場面…教室

始業式が始まるまでの休み時間。

希輝 3年間同じクラスね。

朝帆 中学から数えたらもつとよ。

希輝 うん、そうだね……今年もよろしくね。

朝帆 いつものように、ね。

夕一 ねえ、僕もいるんだけど。

朝帆 女の子同士の友情の確認に男は不要なの。男は男でやりなさいな。

夕一 う〜ん。でもなあ、ほとんど知っている奴ばかりだしなあ。なんかこう、新鮮味に欠けるといいうか。

希輝 3年間同じクラスの子っていないの？

朝帆 夕一だけ別のクラスだったからね。あら、中学から数えたらもつとかしら？

夕一 ちえ。……あ、四葉君だ。

朝帆 誰？

夕一 3年間同じクラスの奴。

希輝 どんな人？

夕一 う〜ん。説明が難しいけど、一言で言えば「ミステリアス」かな。

朝帆 何よそれ。気難しいってこと？ まあ確かに、愛想ないわね。

夕一 そんなことないさ。話してみたらわかるよ。

教師が入ってくる。

教師 始業式が始まるから、体育館に集合しろ。

希輝 さ、行きましょう。

夕一 うん。……あれ？

希輝 どうしたの？

夕一 いや、何だろう、変な感じがする。

朝帆 変なのはあんたの顔よ。希輝、ほっというて行こう。

夕一 (何か違和感を感じ、首をかしげる)

場面…廊下

始業式も終わり、閑散とした学校内。

朝帆 さてさて、毎年恒例のやついきますか。どこから行く？

希輝 教室、下駄箱、体育館までの行き方はわかったから、図書室と音楽室かな。

朝帆 OK。職員室も行ってこうよ。それと重要ポイントもね。

夕一 どこ、それ？

朝帆 女の子が色々するところよ。

夕一 ああ、トイレね。

朝帆 女の子に言わせるんじゃないわよ。あんたは食堂に行つて何か食べてなさい。

夕一 はいはい、じゃあ希輝、あとでね。

希輝 うん。

希輝が白杖を持って、朝帆の腕をつかむ。

夕一が何かに気付く。

夕一 あ、わかった。

朝帆 何が？

夕一 始業式が始まる前に感じた違和感だよ。

朝帆 自分の顔が変なことによく気付いたか？

夕一 そうじゃなくて、ミサンガだよ。ほら、白杖に付いてないでしょ。

希輝 え！？

希輝が白杖を触つて確かめる。

希輝 ほ、本当だ……。どうしよう。

朝帆 落ち着いて、今朝、家を出るときは付いていたの？